

授業の玉手箱

オンライン辞書作成に関わって

夫 明美

2015 年も折り返し地点を過ぎようとしています。日常会話でも、「もう半年終わるねんなあ、早いなあ」、「何にもしてないわあ」という言葉が聞かれます。私自身は何をしたか、と振り返り、本稿では 2 年ほど前から関わっているオンライン辞書の内容を簡単にご紹介したいと思います。

国立国語研究所のプロジェクトの一環で「基本動詞ハンドブック」という、日本語の基本動詞に特化したオンライン型の辞書があります。日本語学習者、日本語教師の日本語基本動詞の理解を目的とする本辞書の特徴は、以下の数点にあります。

1. 動詞がもつ多義性について、「中心的な意味」から「派生的な意味」を多角的に、事例を交えて紹介すること
2. またその意味の広がりについて認知言語学的観点から解説を加えること
3. 図解や音声を使用し、例文を豊富に用意する。例文は、他プロジェクト（「現代日本語書き言葉均衡コーパス」「筑波ウェブコーパス」）からの用例を積極的に活用し、生きた情報提供をすること

例えば、初回会合の合宿では約 20 名のプロジェクト参加者が「走る」という動詞の多義性についてマルー日議論しました。事前の宿題として、「走る」の語義を整理することが課され、それ自体が非常にチャレンジングな課題でしたが、自分の第一言語に向き合い、ルール化を試みる有意義な時間でした。実際の議論では、皆のアイデアを共有しながら一番中心的な意味「人間や動物が足を素早く動かして地面を移動する」という物理的な運動から、「ペンが走る」に見られる「スムーズな動き」への発展にはどのような基盤があるのか、をかなり整理出来たように思います。私にとっては非常にワクワクする時間でしたが、帰宅して家族に話すと「言語好きのお祭りやね」と若干冷やかな反応を得ました。

現在は自分が担当する動詞項目について執筆を続けながら、新しい試みとして、「例文理解を深めるイラストを付加するため」のサブプロジェクトに参加しています。本稿の読者の皆さんは英語をご専門とする方々かと思いますが、おそらく第一言語は筆者と共通の方々も多いかと思われますので、お時間のある時にご覧いただいて、ご意見ご感想などをいただければ、今後のプロジェクトに活かしていきたいと思えます。

参考ウェブサイト

- 基本動詞ハンドブック <http://verbhandbook.ninjal.ac.jp/>
- 現代日本語書き言葉均衡コーパス http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/
- 国立国語研究所 <http://www.ninjal.ac.jp/>
- 筑波ウェブコーパス <http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/>

書籍紹介

『人物で見る日本の教育』

沖田行司（著）、ミネルヴァ書房（2012/04）、3,024 円、301 ページ



教育は時代を反映する鏡である、その時代が求める人間と社会の理想や、時代の内包する矛盾も教育に映し出される、とは人口に膾炙された一文である。

近年を見れば、新自由主義の潮流のなかで、さらに最近では Global という流行語のもとでの競争と選別が大手を振り、我が国の教育がいざこの港を目指して航海しているのか、どこをどなたが責任を持って舵取りをされているのかと、小首をかきしげる時がある。

温故知新という言葉がある。本書は、時代を江戸、幕末・明治、大正・昭和、と区切り、それぞれの時代の教育動向を眺みながら、各時代の新しい課題を担った 37 名の人物が配されている。

それぞれの登場人物が課題とした問題がどのような意味を持ったのか、それが今日の私たちの教育に何を問いかけているのか、近代を用意した前近代の思想の成熟期を経て、現代へとつながる我が国の教育の歴史を辿りながら、先人の言葉に耳を傾けた時に、私たちが直面する教育課題にどのように向かうべきかの示唆が得られる一冊である。

（中垣芳隆）

第 37 回勉強会「英語の教え方教室」簡易報告

平成 27 年 6 月 20 日（土）14:00 ~ 17:00

「スクラップブック・プロジェクト—英語嫌いの高校生を支援する取り組み—」

四條畷学園高校 村田 良一 教諭



参加者は発表者を含め 11 名とやや少なかったが、whole language の考え方を知ったり、中学校校長を退職後、非常勤として現役を続けられる村田先生が生徒の英語への学習意欲を引き出すために自分が変わろうとして新たな取り組みをされる姿を垣間見たりして心に残る勉強会であった。

現在勤められる高校の生徒にアンケートをされた。「英語が好きですか」に 87% 近くがそうであると回答するが、「学校英語は好きですか」には嫌いもしくは好きではないに 73% が回答する状況に、どうすれば意欲的に学ぶであろうかと思索された。

そこで大学院で学ばれた whole language の理念を実践しようと考えられた。Goodman (1986) “What makes language very easy or very hard to learn?” や Yvonne S. Freeman & David E. Freeman (1992) “Commonsense assumptions versus whole language principles” を踏まえ「スクラップブック・プロジェクト」を 15 人の選択「英会話」クラスで実践されたとのことであった。

最初のスクラップブック作成は「音楽」についてであった。Cullen & Mulvey (2008) “Scraps” Nagoya: Perceptia Press の指導例に倣って、Brainstorm, Sample Scraps の提示, Interview, Preparing Your Presentation, Presentation と一連の流れの活動形態で行われたが自宅課題とされたのでうまくいかなかったとのこと。次に生徒にカメラを渡し、自由に写真を撮って School life についてスクラップをまとめる活動を実施された。結果は全員が参加し懸命にスクラップを作り、拙いながらもスクラップ紹介というプレゼンをこなしたということであった。発表を含め 4 時間という時間をかけ、授業の場での活動、カメラという小道具が生徒を動かしたようである。最後は生徒の要望に答え、クリスマスパーティを行われたとのことであった。180° 転回するような授業展開の刺激は生徒の心に残り、英語の授業に取り組む姿勢が増大したようだ。人間性溢れる実践報告であった。（中井）

「勉強会」今後の予定

■ 第 38 回勉強会「英語の教え方教室」

平成 27 年 7 月 18 日（土）14:00 ~ 17:00

「新しい英語教室の創造：“反転授業”の理論とその実践」

大阪教育大学大学院生

大阪府立大学工業高等専門学校講師 谷野圭亮

■ 第 39 回勉強会「英語の教え方教室」

平成 27 年 10 月 17 日（土）14:00 ~ 17:00

「教職フィールドワーク（英国）報告・課題研究発表 in English」

大阪女学院大学 学生 豊福 良子、重川遥香

教授 中井弘一

詳細は <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course>



編集後記

今夏も教員免許状更新講習 1・2 を行う。50 名を超える参加申し込みがあるそうだ。講習担当教員、気を引き締めてがんばりたいと思う。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp